

# パラリンピックは 障害者のスポーツ環境を 変えるのか？

“繋ぐ”存在である都道府県障害者スポーツ協会の役割について考える

笹川スポーツ財団(SSF)では、「障害者の生涯スポーツ振興のための環境整備」を重点テーマとして、研究調査活動を行っております。今夏に行われました東京パラリンピックでの国内外の選手の活躍により、障害者スポーツに対して、多くの注目が集まりました。この盛り上がりや、障害者の生涯スポーツ振興に繋げるにはどうすべきかを考えるセミナーを開催いたします。

2021年 **11月15日** [月] 10:00-12:00

● 形式 **オンラインセミナー**

● コーディネーター 小淵 和也 笹川スポーツ財団

● 登壇者



鶴岡 美空氏 SSF地域スポーツイノベーター

2013年4月に社会福祉法人太陽の家 障害者支援施設ゆうわに介護員として入職。2018年5月に大分県障がい者スポーツ協会にSSF地域スポーツイノベーターとして配置される。現在は、社会福祉法人太陽の家にて主に、日常生活で介護を必要とする障害者に対し、ポッチャや卓球パレー等のスポーツ訓練や、筋力トレーニングなど個別に応じた支援をおこなっている。



藤田 勝敏氏 (公社)東京都障害者スポーツ協会

1993年に東京都障害者スポーツ協会に入職。2012年に連絡調整担当室長に就任し、「スポーツ祭東京2013」成功に貢献。その後、スポーツ支援課長、地域スポーツ振興課長を歴任し、2021年よりスポーツ振興部長を務める。東京パラリンピック後の障害者スポーツ振興のために、環境の整備や人材育成、障害者スポーツへの理解促進事業、競技力向上施策などを行っている。



角正 真之氏 (福)大阪市障害者福祉・スポーツ協会

2007年に大阪市障害者福祉・スポーツ協会に入職、長居障がい者スポーツセンターに配属され、スポーツ指導員として勤務。2013年には、障がい者スポーツ協会業務を担当する「スポーツ振興室」に配置転換され、地域団体とのコーディネート役を務めるなど、主任として地域における障害者スポーツ振興事業を担当。2017年からは、日本パラスポーツ協会技術委員として、全国的な地域振興にも関わる。



遠藤 恵美氏 (公財)福島県障がい者スポーツ協会

2000年シドニーパラリンピック 車いすバスケットボール銅メダリスト。小学5年でバスケットボールをはじめ。1996年アトランタ大会(5位)から、2000年シドニー大会(銅メダル)、2004年アテネ大会(5位)、2008年北京大会(4位)とパラリンピック4大会連続出場。日本代表チームの上位進出に貢献。2015年に現役を引退。現在は、福島県障がい者スポーツ協会に勤務し、地域における障害者スポーツの普及活動を行っている。



三上 真二氏 (公財)日本パラスポーツ協会

1986年に日本身体障害者スポーツ協会(現:日本パラスポーツ協会)に入職。1997年に退職後、大阪市障害更生文化協会(現:大阪市障害者福祉・スポーツ協会)に入職。同協会障がい者スポーツ振興部スポーツ課副主幹、大阪市長居障害者スポーツセンター館長を歴任。2019年に退職し、日本障がい者スポーツ協会に入職。2021年よりスポーツ推進部長を務める。障害者スポーツ環境の整備や指導者育成を行っている。

※登壇順

**参加費無料**

お申し込みはこちら



[https://www.ssf.or.jp/dotank/seminar/ssf\\_seminar2021.html](https://www.ssf.or.jp/dotank/seminar/ssf_seminar2021.html)

未来に夢を描き、行動するシンクタンクとして  
スポーツを通じたソーシャルイノベーションを推進します

笹川スポーツ財団が目指す“Sport for Everyone社会”とは

国民一人ひとりが日常生活や人生の中でスポーツを楽しんでいる世界観を表しています。

「誰でも・どこでも・いつでも」スポーツに親しみ、スポーツを通じてより良い生活環境が形成され、

誰もが幸福を感じられる社会づくり(ソーシャルイノベーション)を使命とした公益活動に取り組んでいます。

Sport for Everyone 社会の実現

GOAL2025

スポーツによって長くアクティブに生きられる社会



研究調査事業

一人ひとりがスポーツを楽しめる社会の実現のため研究調査活動を行い、エビデンスと現場の声に基づく政策提言をまとめ、それを国や自治体、各種スポーツ団体等の施策・方針に反映させることで、目指す社会の実現を図ります。

- 科学的な研究
- 多様な社会的価値を追求
- 社会課題の解決
- 「する・みる・ささえる」環境の充実

地域連携事業

地方自治体と包括連携協定を結ぶなど、スポーツを通じたまちの発展に向けて、協働して取り組んでいます。また、チャレンジデー開催を契機に地域スポーツ振興や広域自治体・基礎自治体間の連携推進体制の構築を支援しています。

財団概要

名称	公益財団法人 笹川スポーツ財団	加盟機関	国際スポーツ・フォー・オール協議会 (TAFISA) 日本スポーツ・フォー・オール協議会 (TAFISA-JAPAN) 国際スポーツ・フォー・オール連盟 (FISpT)
所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル3階 TEL 03-6229-5300 FAX 03-6229-5340 E-MAIL info@ssf.or.jp	関連組織	特定非営利活動法人 日本スポーツボランティアネットワーク (JSVN) 特定非営利活動法人 日本ワールドゲームズ協会 (JWGA)
目的	スポーツ・フォー・エブリワンの推進		
行政庁	内閣府		



スポーツ白書2020

日本のスポーツの現状をデータに基づいて詳細に分析した、スポーツ界における唯一の白書。70名を超える研究者・実務者が、国内外の最新データに基づき分析・執筆したスポーツ関係者必携の書。



スポーツライフ・データ2020

成人を対象に1992年から2年ごとに実施している全国調査。新型コロナウイルス感染症による大きな変化の中で、人々のスポーツライフはどのような実態なのかを探るべく、2020年調査では「社会の変化とスポーツライフ」をテーマに、全国の18歳以上の男女3,000人を対象とした訪問留置法による質問紙調査を実施しました。



スポーツ歴史の検証

日本のスポーツを牽引し、輝ける足跡を残した方々、世界で頂点を極めた方々へのインタビューを通じてスポーツの価値や意義を明らかにし、今後のスポーツのあるべき姿を考えます。



メールニュース会員登録



公式Facebook



公式Twitter

Supported by THE NIPPON FOUNDATION

SSFは、ポートルースの交付金による日本財団の助成を受けて活動しています。